

各地の話題 気仙沼市

市の新たな秋の味覚へ ふるさとにブドウで新規就農

2025 年 9 月 5 日号掲載

全国農業
新聞
NATIONAL
AGRICULTURAL
NEWS

気仙沼市八瀬地区で生食用ぶどうの栽培に取り組んでいる藤村駿斗さんの農園では、今年の出荷に向けた作業に追われている。

藤村さんは、山形県や福島県の農園で果樹の栽培に携わった経験を活かして令和4年に故郷で新規就農した。

現在はシャインマスカット等栽培品種が12種類で、96本の樹を栽培している。果房は全て無核（種無し）化処理され、主に地元のJA農産物直売所で販売している。消費者からは「気仙沼市産のブドウは珍しい」と声をかけられるという。

藤村さんは「自分のブドウをカツオやサンマに並ぶ市の秋の味覚にしたい。将来的には、ふるさと納税返礼品登録、直売所や観光農園の開業を目指している」と語る。

藤村さんの園地では9月中旬から10月中旬まで収穫が行われている。

【記事提供】 気仙沼市農業委員会

袋がけ作業中の藤村さん



袋がけ前のシャインマスカット

